

くと、UMNO 寄りの企業であることは間違いないと思われる。

初期のアブドゥラ政権は、リベラルでクリーンなイメージを与えて総選挙においても大勝を取めた。現在もそうしたイメージが完全に失われたわけではない。ただ、本稿でみてきたように、少なくとも現在までのメディアに対するアブドゥラ政権のスタンスは、管理の強化と集中化を促す結果となっている。このように一見するとリベラルな政権の下でメディア管理が強化されているという事実がなぜ起こっているのか。それについて幾つかの解答はあるののだが、それはまた別の機会に議論したい。

〔資料紹介〕

ペラ州に関する歴史資料について

東條哲郎¹

0. はじめに

本稿では、ペラ州に関する歴史資料の所在について報告する。筆者は、2004年10月より2006年9月までの約2年間マレーシアで留学した。その際に主に行なってきたのが、ペラ州に関する文献資料調査である。ここでは、ペラ州に関する文献資料に関し、所在地別に紹介したい。なお、他の州に関しては、注であげている参考文献などを参照して頂ければ幸いである。

1. 国立公文書館²

ペラ州に関する主な歴史資料は、クアラルンプールにある国立公文書館 (National Archives; Jalan Duta) に収められている。資料は中央/地方省庁に関する資料、一般書籍・新聞、その他に分類することができる。

¹ 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程

² 国立公文書館に所蔵されている資料に関しては、黒田景子・水島司. 1990年. 「マレーシア国立公文書館収蔵資料とその利用について」『通信』第69号. 東京: 東京外国語大学に、詳しいリストなどが出ている。

1.1 中央/地方省庁に関する資料

公文書館に収蔵されている資料は、中央省庁および州政府の資料に大きく分けられる。ペラ州に関する資料は、年次報告や法令などは中央省庁資料に、より細かいファイルなどは州政府資料に含まれている³。

この内筆者が主に調査をしたのが後者の州政府資料である。その中心をなすのが、ファイル資料である。ファイル資料は、各局および県(Daerah)の資料に分類できる。

イギリス植民地期より、政府各局は、それぞれの局で扱われた事項をファイル形式で保存している。この中で、特に充実しているのは、キンタ土地局ファイル(Kinta Land Office File : 以下 KLO と略記)である。KLO は、キンタ県の土地局で扱われた土地に関する全ての事案を集めたものであり、土地の登録、用途の変更、各種報告など、多岐にわたる内容を含んでいる。1896 年以降(主には 1903 年以降)のファイルが残されており、1 年分のファイルリストが 1 冊のインデックスとして纏められているが、量も膨大であり多い年では 3000 件近いファイルが残されている。KLO のファイル自体は英語で書かれているが、ファイルに添付されている書類の中には、漢文・Jawi など書かれた嘆願書なども残されている。

その他の部局としては、鉱業局、森林局、土地測量局などの省庁のファイルおよび、県レベルで扱われた案件が、ファイルとして残されている。

ファイル以外の資料としては、各省庁の年次(月次)報告や、法令集、裁判記録などがある。その中で、ペラ州の財政を支えてきた錫鉱業に関しては、鉱業台帳が残されている。鉱業台帳とは、鉱業リースの位置・面積、保有者、リースの移譲、又貸し、実際の労働者数などが記された台帳であり、当時の錫鉱業に関する貴重な一次資料と言える。台帳は、基本的に各県レベルで纏められているが、採掘量の最も多かったキンタ県に関しては、区(Mukim)ごとに分けられている。

1.2 書籍・新聞

国立公文書館に、保存されている書籍は一般出版物と新聞にわけることができる。このうち、一般出版物は、閲覧室 2 階に開架で置かれており、入館者は誰でもアクセスすることが可能である。なお、これらの出版物のうち、一部の文書館関係の出版物以外は、国立図書館などにも収められている。

³ 公文書館の資料に関しては、1969 年以降発行されているアクセッション・リストで知ることができる。この内、独立以前に関する資料は、Arkib Negara Malaysia. 1969. *Accession List 1957-1967*. KL: Arkib Negara Malaysia に纏められている。なお、現在一部がデータ・ベース化されており、館内のコンピューターで検索することが可能である。

マレーシアで発行されている全国紙のほとんどや、地方紙の一部が収められている。ペラ州に関するものとしては、19世紀末に発行された Perak Pioneer 紙を始め、かなり充実している。なお、新聞資料は閉架であり、閲覧の申請をする必要がある。

1.3 その他

近年、文書館ではオーラルヒストリーの収集に力を入れており、現代史に関するかなりの資料が残されている。地図に関してもペラ州に関しては、19世紀以降の測量図などが充実している。

2. マラヤ大学など

2.1 マラヤ大学図書館

マラヤ大学図書館にも、各種の資料が揃っている。このうち、本館には主にマイクロ・フィルム資料⁴が、Za'ba 図書館には、雑誌・政府公刊物などが保管されている。また、法学部図書館には、州官報 (Government Gazette) および州法が書籍の状態に保管されている。

2.2 中国語資料

中国語資料に関しては、マラヤ大学東アジア図書館や華社研究中心図書室 (中華大会堂; Jalan Maharajalela に付設) に、各種会館・学校などの記念特刊が保存されている。しかし、どちらもクアラルンプールという場所柄からか、スランゴール州に関するものがほとんどであり、残念ながらペラ州の資料はそれほど充実しているとはいえない。

3. ペラ州

ここでは、ペラ州にある図書館などを紹介したい。なお、ここであげている図書館は、特に記さない限り事前の許可などは必要ない。

3.1 ペラ州立図書館 (イポー)

ペラ州立図書館 (Perak State Library; Jalan Raja Dihilir) の3階には、ペラ州資料室がある。この資料室には、州関係の蔵書のほか、非公刊出版物や写真などの資料が保存さ

⁴ マラヤ大学所蔵のマイクロフィルム資料に関しては Sivachandralingam Sundara Raja; Fernando, J.. 2004. *Panduan Sumber Sejarah di Universiti Malaya (A Guide to Historical Sources at the University of Malaya)*. Shah Alam: Karisma Publications Sdn. Bhd.

れている。前者のほとんどはクアラルンプールでも入手可能であるが、後者の中には、かなり貴重な出版物もある。ただし、体系的なインデックス等は存在しないため、スタッフの力を借りながら1冊1冊探す必要がある。

なお、同図書館の分館が、各区に置かれているが、個別の蔵書は、それほど多くない。

3.2 地質調査局付属図書館（イポー）

この図書館は、地質博物館（Geological Museum; Jalan Sultan Azian Shah）に併設されている。同博物館は、主にペラ州キンタ溪谷で採取された鉱石を展示している。同図書館には、主に地質学関係の図書・雑誌及び地質図が保管されている。なお、図書館を含めた同施設はキンタ溪谷が世界的な錫産出地域であったころには、錫研究センターとしても機能していた。

3.3 タイピン州立博物館付属図書館

タイピン州立博物館（Taiping State Museum; Jalan Taming Sari）は、マレーシアで最も古い博物館の一つであり、同図書館も長い歴史を持つ。イギリス植民地統治期には、州で発行された図書・雑誌の他、内外の博物学関係の書誌を収集しており、同図書館には、19世紀後半以降の貴重な文献資料が残されている。

3.4 その他

ペラ州政府が現在発行している報告書は、全て州経済企画局（Economic Planning Unit; 1st Floor, Bangunan Perak Darul Ridzuan, Jalan Panglima Gantang）にある図書室に収められている。また、州官報、州法については、同じ建物内にある、Perak Secretariat Libraryに収められている⁵。なお、この両図書館は、州議会などの入っている建物の中にあるため、この建物に入る際にはパスポートの提示が必要である。

国立公文書館のペラ分館（Perak Branch, National Archive; 9th Floor, Bangunan Sri Kinta, Jalan Sultan Idris Shah）には参考図書室があるが、ほぼ全ての資料をクアラルンプールの本館に送っているため、資料はほとんど存在しない。

⁵ なお、この両図書室は、近々同建物の別の部屋に合併されるとのことである。